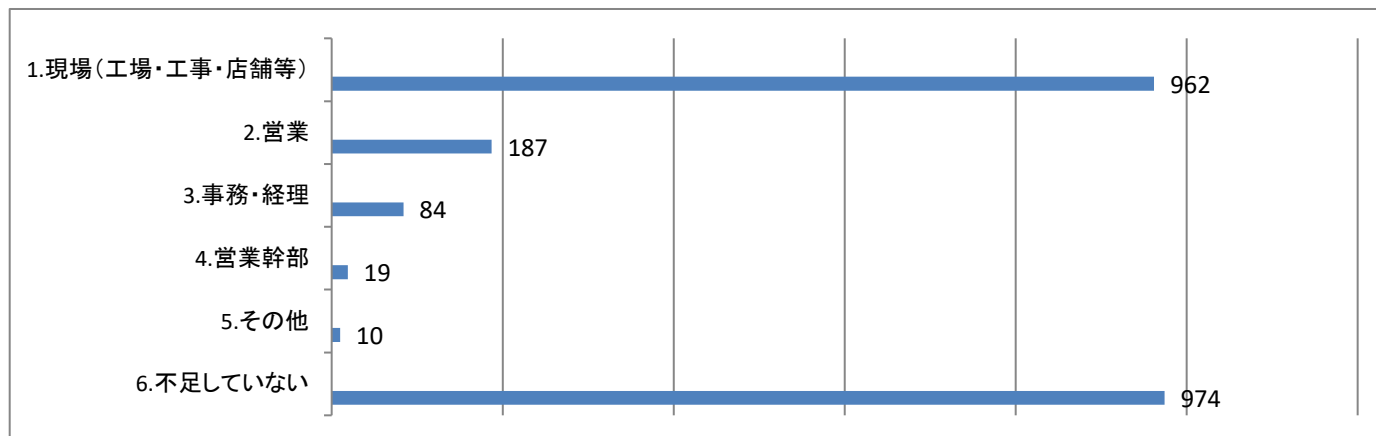


【令和6年12月度 にしん景気動向調査 追加質問】外国人の雇用状況について

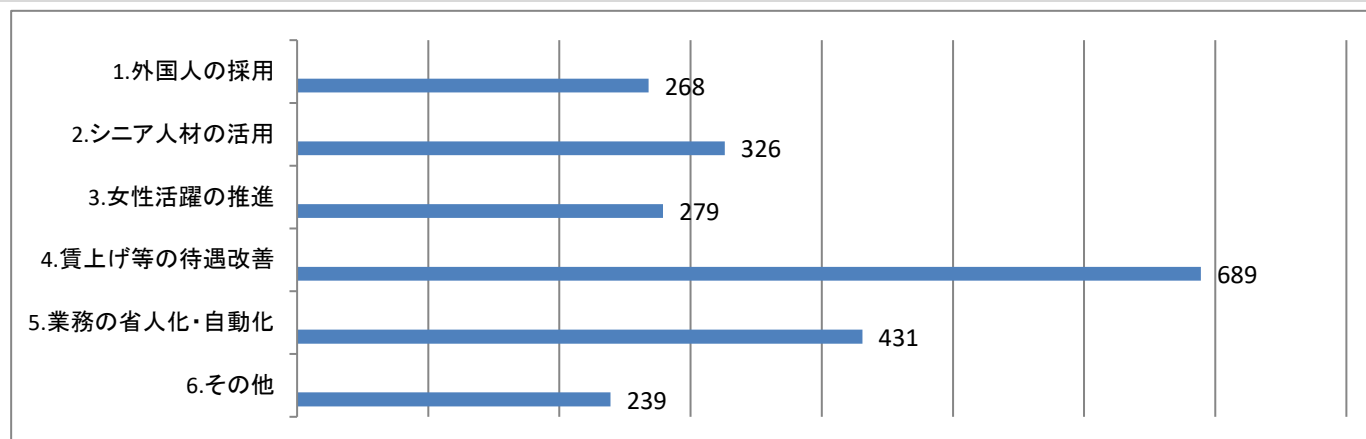
外国人労働者数は年々増加し、昨年10月末時点で前年比12.4%増の204万に達し、比較可能な2007年以降、過去最高を記録しました。調査先事業者には「外国人の雇用状況」についてお伺いしました。

問1. 現在、人手不足となっている業務をお答えください。(複数回答可)



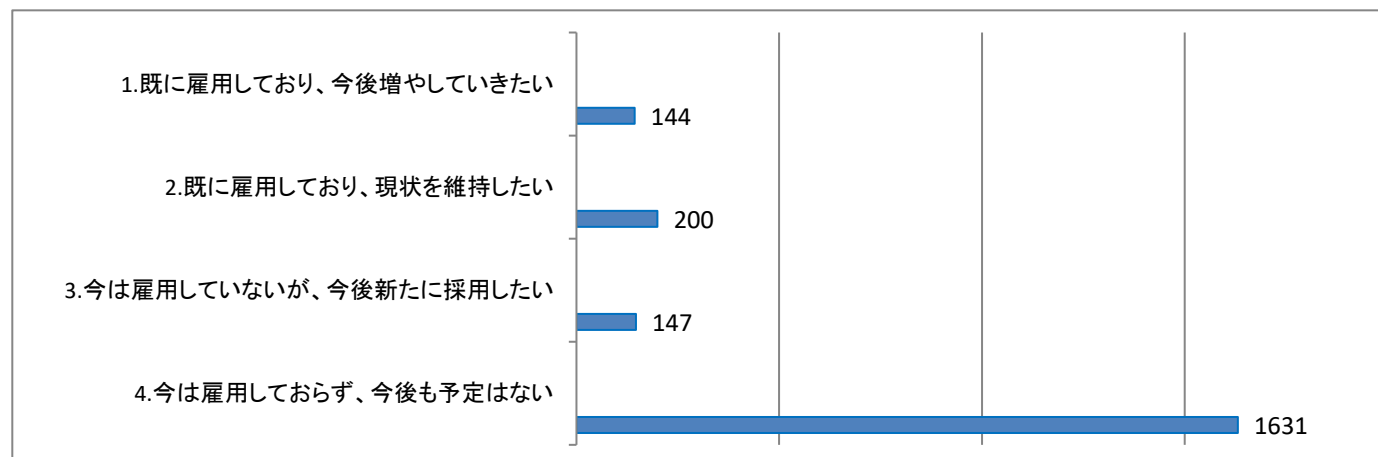
☞ 人手不足を感じている事業者が全体の56%を占め、特に「現場(工場・工事・店舗等)」の業務において人員が不足している結果となった。

問2. 人手不足への対応として取組んでいるものをお答えください。(複数回答可)



☞ 人手不足への対応としては、「賃上げ等の待遇改善」が最も多く挙げられた。次いで「業務の省人化・自動化」、「新たな人材(シニア、女性、外国人)の活用」と続く結果となった。

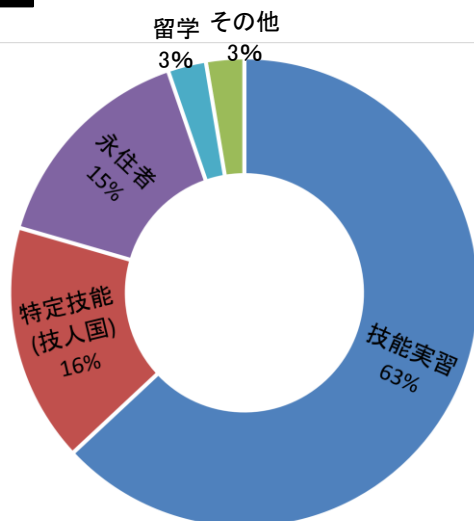
問3. 外国人採用について、貴社のお考えをお答えください。



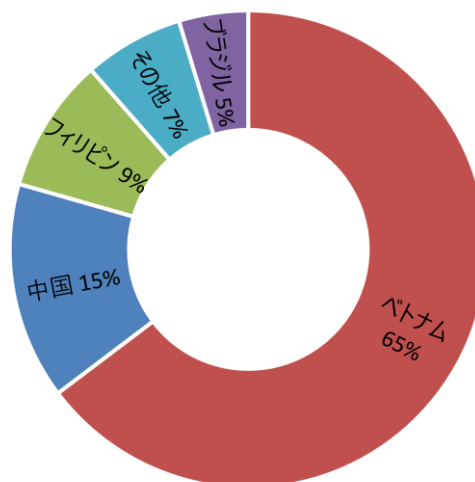
☞ 外国人を既に雇用している事業者は全体の16%であった。また、雇用している事業者の約4割、雇用していない事業者の約1割が「今後、外国人の採用を増やしたい」と回答された。

問4. 前質問で、「外国人を既に雇用している(1と2)」と回答された方にお伺いします。
雇用している外国人について、最も割合が大きいものをお答えください。

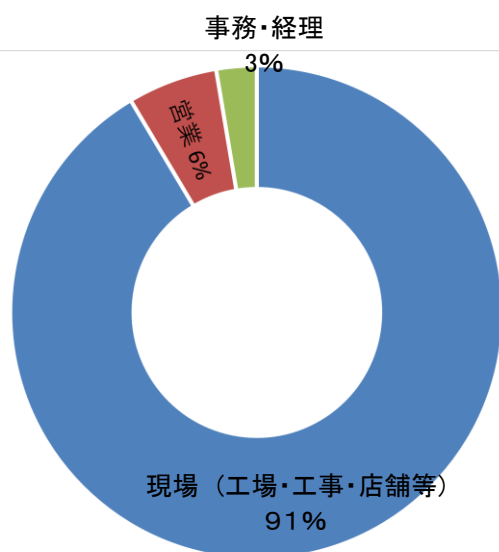
在留資格



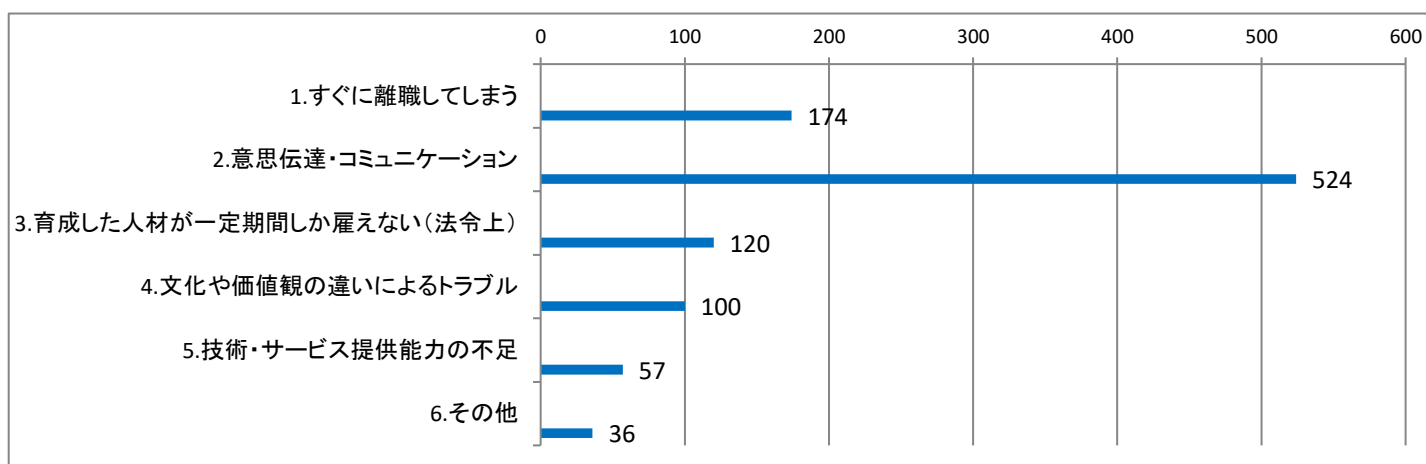
国籍



従事している業務

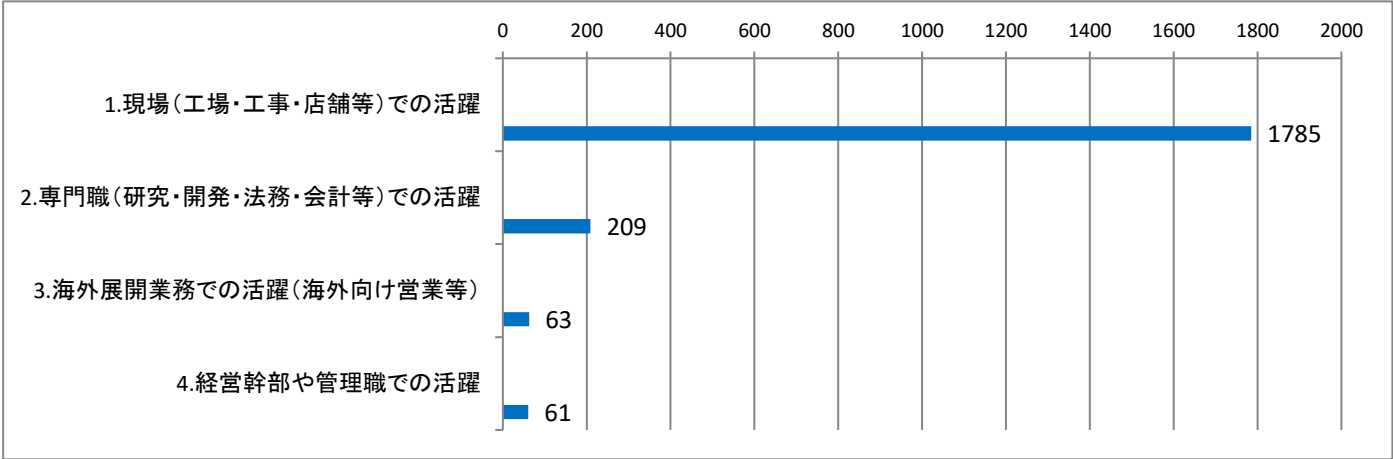


問5. 外国人を雇用するにあたり、実際に「課題」となっていることをお答えください。(複数回答)



外国人雇用の「課題」については、「意思伝達・コミュニケーション」が最も多く挙げられた。次いで「すぐに離職してしまう」、「育成した人材が一定期間しか雇えない(法令上)」と続いた。

問6. (すべての方にお伺いします)今後、外国人雇用者に期待することをお答えください。



外国人雇用者に期待することとして、「現場（工場・工事・店舗等）での活躍」が8割以上が占めた。次いで、研究・開発・法務・会計等の専門職での活躍が約1割と続いた。